

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： スマートホーム・パティオ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100021		
法人名	スクー株式会社		
事業所名	スマートホーム・パティオ		
所在地	〒026-0052 釜石市小佐野町2丁目3番39号		
自己評価作成日	令和4年4月4日	評価結果市町村受理日	令和4年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1日の生活の中で基準となる時間(食事・入浴・起床・就寝)は決まっているが、個人の希望や入所前の生活習慣に合わせて、変更したり、できる限りもともとのご自身の生活に近い施設生活を送れるように支援しています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は釜石市の市街地から西寄りの住宅地にあり、釜石自動車道の釜石中央インターチェンジや県の釜石地区合同庁舎の近傍に位置している。長引くコロナ禍により外部との接触が制限される中において、これまで培ってきた地域との交流が途絶えがちになっているが、「笑顔と 思いやり みんなの中に わ」とする開設時に掲げた理念に立ち戻って日々の支援に当たっている。利用者1対1で「座ってゆっくり話すこと」を職員間で共有しながら、管理者自らが毎日の午後の時間に利用者に声掛けし、その日の状態や思い、希望の把握に努め、利用者を誉め、感謝を伝えるなどしながら、利用者一人一人の尊厳を尊ぶ支援に努めている。コロナ禍の収束を見据え、これまでのような地域との活発な交流の再開が待たれる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	立ち上げ職員が作り上げた理念は、ホールに掲示して共有している。	朝のミーティング時に昨日の振り返りと当日への申し送りに併せ、短時間であるが管理者を中心に「笑顔と思いやり みんなの中にわ」とする理念の実践に向けた職員意識の徹底を図り、利用者との意思の疎通の円滑化に努めている。	事業所運営の基本としての理念の実践をより徹底するため、介護の場面での具体的指針等を職員の総意で掲げることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会会員となっている。近くに小学校・保育園があるが、コロナ禍のため慰問等は行っていない。	小佐野町内会に加入している。コロナ禍により地域との交流が難しい状況にあり、以前のような地域活動への参加が出来ない状態が続いている。保育園の園児が敬老の日に訪問してくれたり、小学校の運動会に招待されたり行事が一日も早く復活してくれることをひたすら待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等通じて、認知症介護支援の実践を発信し、理解の一助となっているが、コロナ禍のため会議を開催できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等通じて、認知症介護支援の実践を発信し、理解の一助となっているが、コロナ禍のため会議を開催できていない。	委員には地域包括支援センターや町内会長、民生委員、小佐野交番所長と地域の主だった方々をお願いしている。コロナ禍のため、書面開催が続いており、利用者情報や行事報告、ヒヤリハットの発生状況について書面での報告が続いている。管理者は、コロナ禍の推移を見ながら、利用者家族の代表もお願いしたいとしている。	書面での会議開催も止むを得ない状況が続いているが、委員から質問、意見等をいただきそれに対する回答を示す工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課へのほぼ毎週の事務連絡から協力関係が継続され、また近所の生活応援センターなる支所的機関とは、地域や仮設住宅の高齢者ケア等において連携が図られている。	対面での運営推進会議を開いていないこともあり、市の担当課や地域包括支援センターへはしばしば訪問している。また地域の医療介護関係者の集りであるケア会議にも出席し、相互に連携を図るよう努めている。 生活保護受給者の入居はない。	

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し見直しを行っている。職員研修でも取り組むこととしている。	身体拘束廃止指針を作成し、2ヵ月毎に委員会を開催し、職員の研修も行っている。現在はベッド柵等の拘束を必要とされる利用者はいない。スピーチロックがあった場合には、他の職員の間を避けながら、管理者は静かにアドバイスするように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の区分、定義や事例を学び、見過ごすことないように留意しており、職員研修でも毎年取り組むこととしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の研修が今後必要。個々の必要性はケアマネージャーと相談・検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点等は、その都度質問を取り説明している。契約時に気付かなかった事もいつでも電話にて対応説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時や電話があった際に意見・要望を承り、申し送り等で共有している。	コロナ禍のため家族との面会は通院の付添い時以外は出来ない状態が続いている。管理者は、家族とのコミュニケーションの一助として、毎月の請求書と併せて利用者の生活状況の記録をお送りしてはと考え、また、コロナ禍や気候の状況をみながら、利用者の希望に沿って近くのドラッグストアへ散歩がてら買い物に出掛ける機会を多くつくりたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も参加する、日々の申し送りやミーティング、毎月のスタッフ研修会等にて職員は率直な意見・提案を述べる機会があり、反映されている。	管理者は、毎朝のミーティングや毎月の職員会議を通じ職員の意見、提案の把握に努めている。職員の提案により、早番の出勤時間を30分繰り下げたことから、早番が行う起床介助や利用者の朝食時間を利用者本位の時間帯に改善することが出来ている。管理者は、職員との個人面談を定期的に行いたいとしている。	

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格に応じた手当の支給、勤続年数に応じた昇給等就業規則や給与規定に沿った労務管理に努め、個々の勤務状況の把握や希望休日の受付等環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、外部研修への参加はほとんどないが、ウェブ研修を利用し個々のスキルアップへ努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行っているスタッフ会議内でケアマネージャーより他事業所の情報や取り組みを聞き、日々の仕事へ反映させている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごと、不安が見られたらマンツーマンで話を聞ける時間を作り、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に相談等受け付けている。来所が可能であれば予定を組み対応。電話でも相談を受け付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入後も前任担当のケアマネや入居前の利用サービス事業所等と情報交換に努め、現行サービスの是非やニーズの検討を繰り返している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話から本人が何を考えているか、何を悩んでいるかを読み取り必要に応じて、改めてゆっくりと相談に乗っている。		

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、面会禁止が続き、家族の絆減少が懸念される。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者も歓迎しているが、殆ど見えない、現在外出がなかなかできないため、好きなものを買ってきてもらったりして関係が途切れないようにしている。	コロナ禍のため外部との接触が制限され、以前のように旧知の人が訪れることもなくなった。家族の訪問はあるものの、閉塞感によるストレスを抱え、帰宅願望が強くなっていると思われる利用者が目立つようになってきている。少しの時間でも職員と一緒に出掛けたり、自宅周辺を巡るドライブで対応している。定期的に訪問してくれる美容師が大切な馴染みの人である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	迷惑行為が多い利用者も分け隔てなく、一緒に生活している。トラブルが起きそうなときは、スタッフが間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談を受けることは可能で、必要であれば現ケアマネージャーや施設と情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ・利用者が一対一になる場面での会話を大事に何か変化や希望があれば申し送りやケース記録で共有する。	入居時にそれぞれの思いや希望を確認しているほか、管理者は大切な毎日の仕事として午後のおやつ時間に声を掛け、その日の状態や思い、希望を把握している。会話が不得手な方は、表情やちょっとしたしぐさから推し量っている。職員と1対1になる入浴時間は、会話が弾む貴重な時間である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前情報もとに管理者が実態調査を行い、書面で他スタッフへ共有している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察と記録から本人の状態把握に努め、必要に応じてスタッフ会議で検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体カンファレンスや日常のケア、家族との連絡・相談及び担当者会議やモニタリングを基に介護計画を作成している。また利用者の状態に合わせて職員の勤務時間も臨機にずらして対応している。	介護計画の見直しは、3ヵ月毎に職員が参画する中間時のアセスメントを経て、6ヵ月を周期に見直すこととしている。現在、見直しはケアマネと管理者が、日頃の記録や家族の希望等を基に行っている。中間のアセスメントを中断しているが、近々再開することとしている。家族への説明等はその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察と記録から本人の状態把握に努め、必要に応じてスタッフ会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況の相談を受けただうえで、できる限り希望に答えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域の関係性がほとんどなくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス導入以前からのかかりつけ医とのつながりをそのまま尊重し、またかかりつけ以外の医療機関についても本人希望や症状に合わせて家族と調整や連絡を取りながら受診適っている。	利用者全員が入居前からのかかりつけ医を受診している。訪問診療受診の利用者はいない。通院は家族の対応を基本としているが、半数以上の利用者には、系列の事業所と兼務する看護師などが付き添っている。コロナ禍のワクチン接種は、協力医により全員が事業所内で行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職と共に日々の利用者ケアに当たって情報共有し、通院介助も介して主治医、薬局含めた各関係医療機関とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍のため、直接会い相談することができない為、書面や電話での情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新規入所時や第一回目の担当者会議で重度化した際の方針を伺い、将来重度化・終末期を迎えた際に家族・関係者で話し合い支援していく。	入居時に重度化や終末期を迎えた際の方針を説明し、利用者・家族の意向を確認している。事業所として看取りを行う方向にはあるが、現実的に、家族の意向で病院へ転院するケースが多い。事業所では重度化・終末期看取りについての研修を行い、準備を整えたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ研修に取り入れたり、急変時対応マニュアルを作成し対応にあたっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を行い、実践力を身につけている。	市のハザードマップで浸水想定区域とされている。大雨災害時には近隣の県公舎や系列のグループホームへの避難を想定している。火災時には居室やホールがある2階からの避難が課題と認識している。コロナ禍のため、避難訓練を行いにくい環境にあるが、食料の備蓄や発電機や階段からの安全な避難具は備えている。	コロナ禍により平時と異なり計画通り行事を行うことが困難な場合も想定されるが、火災避難訓練の様々な実施方法について、消防署の指導を得て次善の方策を講じることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「笑顔と思いやり」の精神で接遇し、認知症状によるその人の世界、言動を理解するように努め、矢庭に否定することをせず、人格の尊重に心掛けている。	一日を通じ笑顔で、理念に沿って利用者を否定することのない介護に努めている。利用者と「1対1で座ってゆっくりと話すこと」を職員間で共有し、得意な作業に勤しむ利用者を誉め感謝を伝え、昔話を聴きながら利用者の人となりを推し量っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を話しやすい雰囲気作りに努め、行事等への参加、着衣選び、食べたいメニューや外出先等自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理な強要となることなく、普段と違った体調や気持ちの状況に合わせて、入浴機会や食事の場所・時間、刻み具合等もその人のペースを大切に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や理美容、化粧品の好み、男性であれば髭剃りの仕方等その人らしく出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全に食事ができるよう個々に合った食事形態が選択できる。 お膳の回収、テーブル拭きをできる方が手伝ってくれている。	ごはんと味噌汁以外は、彩りを工夫しながら、外注による冷凍食品を活用している。毎日のおやつや誕生日の誕生食は職員が用意して提供している。利用者は、ウッドデッキのプランターを利用し、職員と一緒に夏野菜用の菜園を手入れしたり、お膳の回収やテーブル拭きの手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食は外部食品メーカーより仕入れている為、栄養バランスは計算されている。水分も本人が飲みたいものを飲めるときに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の往診あり、義歯等に不都合が生じた際はすぐに対応していただいている。また食後の口腔ケアを習慣化しており、口腔内の清潔保持に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表を基に必要な方へは時間毎のトイレ誘導、また個別の尿意サインを見逃さないようにしてトイレでの排泄支援に努めている。	布パンツ3名、リハビリパンツ3名、終日オムツが2名となっている。排泄チェック表をもとに、オムツ利用者を除きそれぞれの自立度に応じ、適時の声掛けや誘導を行い、トイレで排泄している。失禁時には特に利用者が落ち込まないように配慮している。退院して入居した利用者が、排泄介助を通じ自立度が向上した例もある。メーカーの指導に沿って、排泄用品の交換頻度の低減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・散歩、活動を通して離床・運動機会を多くし、一人ひとりの便秘解消の経験・希望も尊重して食べ物や飲み物も自主的に摂って頂けるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に消極的な方が多いが、個別に工夫して誘い、また予定した入浴日にとらわれず本人が気の向いた時やチャンスを逃さず、また排泄汚染時等臨機に入浴対応している。	週2回を基本とし、1人30分から40分かけてゆっくりと入浴している。8人の利用者のうち半数の4人は機械浴だが、職員1人で介助出来る設備が整っている。入浴は午前中とし、夕食後の1人入浴は現実的に難しいとしている。着替えは職員が利用者の好みに沿って準備し、乾燥肌のため、入浴後に利用者全員のケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に眠たいときに寝て、起きたいときに起きる生活を送ってもらっている。夜間不安で眠れないときは、会話をしたりして安心したところで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医指示の基で内服管理している。体調の変化等みられた際は主治医へすぐに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯や台所仕事等日常で一人ひとりに合わせた役割を担って頂き、また日頃塗り絵、花や野菜のプランター作り等趣味活動に楽しんで頂いたりしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人希望に沿える様努力している。 コロナ禍のため、外出は通院時のみとしている。	コロナ禍のため、少しの時間でも自宅周辺を巡るドライブは行っているものの、殆ど外出出来ない状態が続いている。通院時に個別に車で出かけるのが貴重な外出の機会となっている。気候も暖かくなってきており、ホールに続く2階のウッドデッキでの食事や外気を楽しみながらの時間を企画したいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の金庫と現金管理表を基に小口を出納管理し、毎月家族報告しているが、財布を持出して自由に買物して来る方、同行して支払い支援する方、好みを聞いて買物代行する方それぞれに応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は家族等相手の意向を踏まえながら本人希望に合わせていつでも通話できるようにしている。手紙やはがきがたまに届くときもあり、読み聞かせ等の援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然で落ち着いた雰囲気心をかけてはいるが、入居者の作った絵等を壁に飾ったり、節句ごと季節感を出す飾り付けをしたり、通い利用者や家族等来訪者が持って来る花をテーブルに生けたりもしている。	ホールの外側に付近の住宅街を見渡せる広いウッドデッキがあり、これからの花・野菜のプランターを置くには最適の環境が出来ている。利用者は広いホール内のテーブルで椅子に座ったままの昼食後の昼寝を気持ちよさそうにしている。壁面には塗り絵の作品や季節感ある飾り付けがなされ、全体的に広くゆったりとした感じである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、テーブルについて皆とゲーム等するもいソファで一人テレビを見るのもよく、また小上がりの畳でおしゃべりや昼寝してもいいような造りになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はのぞき窓もなく遮蔽かない、置いて不都合ないものは持ち込み自由とし、使い慣れた時計や家具を持ち込む方もある。アンテナ線を引いているのでテレビも持ち込める。	外からの採光がよく、フローリングに備え付けのベッドがある居室がすっきりした清潔感を漂わせている。クローゼットも備え付けられ、各居室にはテレビのアンテナを備え、家族写真や位牌・衣装ケース等も持ち込まれ、居心地良さそうに配置されている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	併設小規模多機能との交流多く、エレベータも設置してあるが階段利用を運動兼ての利用が日毎多くなっていて、波型手すりが有効活用されて安全を創出している。		